

column 《現場風景・あかり光景》118

コロナの影響で延期や中止が続くイルミ・イベント これからの主流は質素なご近所イルネーションに!?



小さなライトアップでも住民参加の手作り感が心地いい（板橋区）

新型コロナ騒動の煽りを受けて、今年はさまざまなイベントが延期または中止の憂き目をみている。これからの季節は例年なら、全国各地でイルミネーション・イベントが実施される時期だが、神戸ルミナリエや表参道イルミネーションなど、やはり大規模なイベントほど早々と中止が発表されている。

新型コロナの第3波の到来がほぼ確実になりつつある現在、各地に活気を取り戻す要因になった「GO・to・トラベル」「GO・to・イート」も付随して縮小に向かう気配が漂う。

このままでは「歳末に向けての街の賑わいはどうなる？」との心配も出てくるが、代わりに頑張っているのが全国各地の商店街だ。

写真は本当に小さな小さな、東京のはずれの商店街で始まったばかりの「ライトアップ（あかり光景）」の模様だ。しかもこれらのライトは、商店街の人々と近隣の住人たちが、みんなで手づくりしたものだ。ライトの多くは子どもたち

が、この日のためのワークショップに積極的に参加して作ったものだとも聞く。

そして新型コロナが首尾よく収束していった後にも、案外、こういう小規模で、アットホームなライトアップが、従来の大規模なイルミネーションの代わりに務める事例が増えていくのではないだろうか。まちづくりの取材を各地で実施してきた経験から、そんな気がしてならない。

神戸ルミナリエや表参道イルミネーションなど、もはや風物詩になっているイルミネーション・イベントは存続するだろう。だが、近年の商店街などのイルミネーションは、いたずらにLED球を増やす競争が蔓延し、商店街には大きな負担になりつつあった。

それだけに新型コロナの影響で、ご近所活動が再び見直されるようになりつつあるこれからは、アットホームで質素な、身の丈に合ったイルミネーションが見直されるように思うのだ。さて、どうなりますことやら。（砂耳）